

第8章 目標達成のための事業

基本方針1:地域をつなぐ公共交通

【目標1】公共交通ネットワークの再編

事業1-1 広域的なネットワークの構築

1-1-1 広域路線とおおなんバスの接続改善

- 邑南町から周辺市町間を移動するには、おおなんバスと広域幹線を乗り継ぐ必要があることから、これらのバス路線の良好な接続が求められます。
- 具体的には、川本線（石見交通）と邑南川本線、高速バスいさりびと瑞穂インター線及び大朝線、羽須美地域のおおなんバスと作木線の接続について、より利便性が高まるよう改善します。

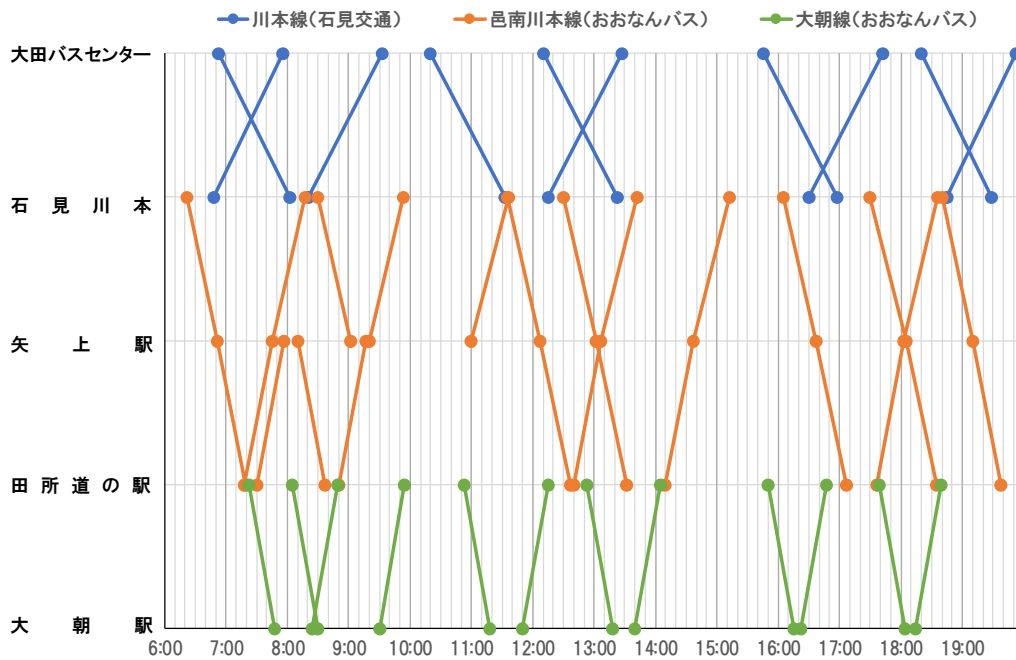


図 49 川本線・邑南川本線・大朝線の接続状況

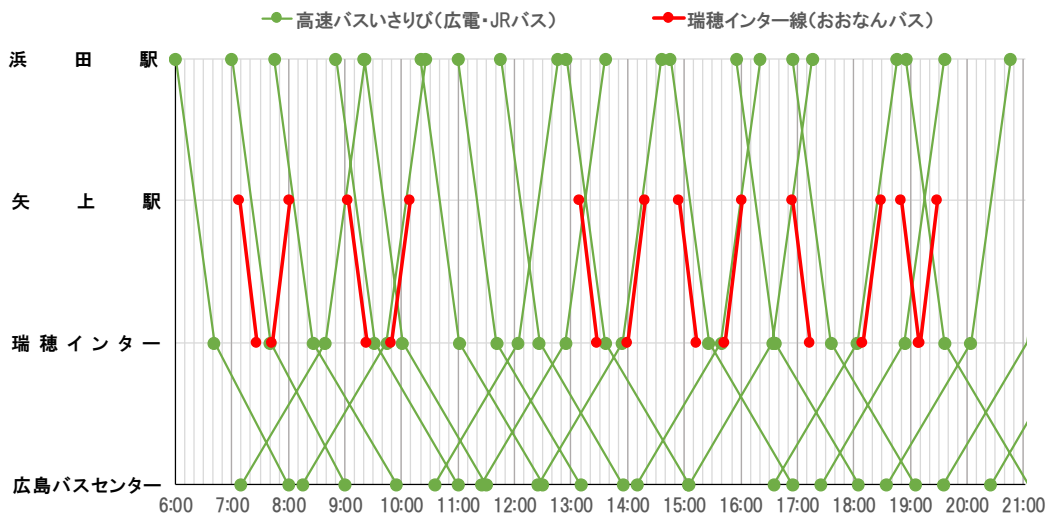


図 50 高速バスと瑞穂インター線の接続状況

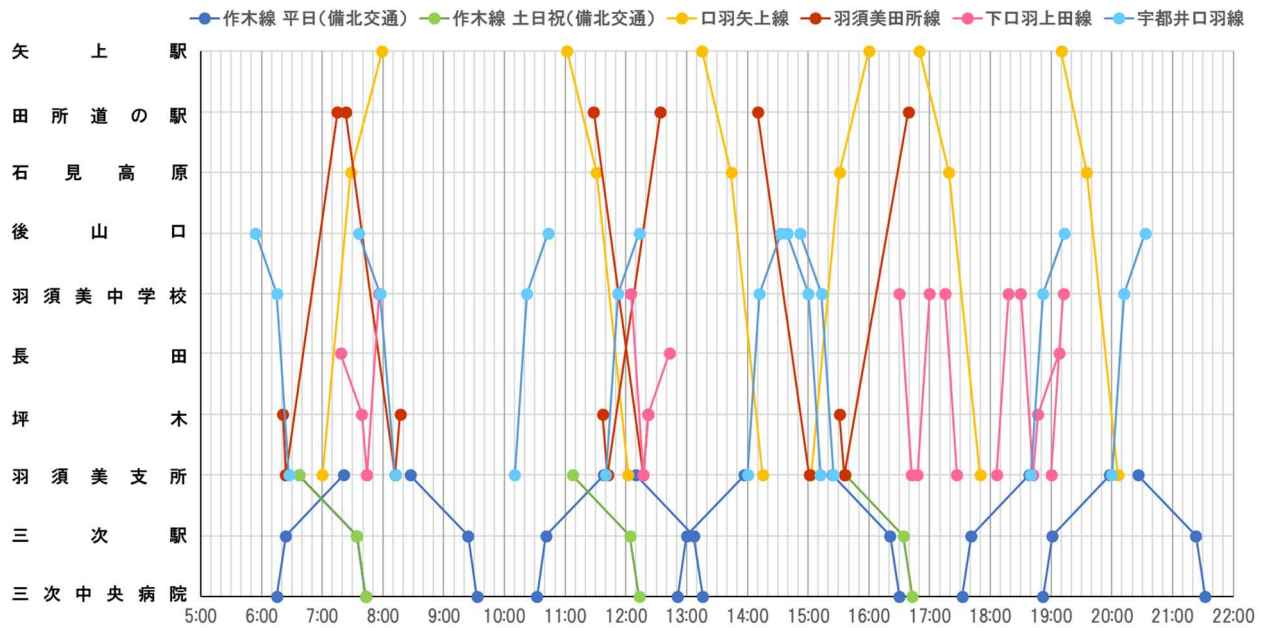


図 51 作木線と羽須美地域のおおなんバスの接続状況

1-1-2 邑南川本線の効率化

- 邑南川本線は本町と川本町・大田市をつなぐ地域幹線となっています。
- 主に高校生の通学便として使われており、おおなんバスの中では利用も多く収支率も高くなっていますが、時間帯によっては利用の少ない便も見受けられます。
- これらの利用の少ない便について利用状況を確認し、利用目的等を勘案しながら効率化に向けた検討を行います。

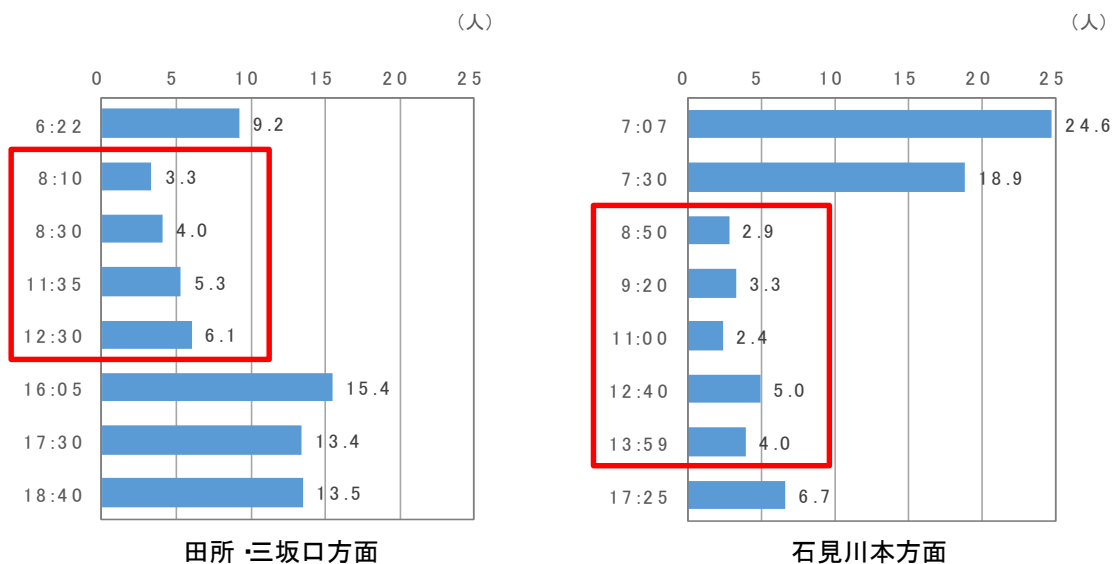


図 52 邑南川本線ダイヤ別平均利用者数 (H30年6/1日~6/30日乗降調査結果より)

事業 1-2 高齢者が利用しやすい支線交通の構築

1-2-1 地域特性に応じた移手段の確保

- 羽須美地域においては、2019 年度から地元NPO法人が主体となって「公共交通空白地有償運送」を実施します。これは、羽須美地域の 8 つの自治会を 7 つの区域に分け、予約によって自宅から目的地まで輸送するサービスであり、この運行によって今まで同地域内を運行していた「けんこう号」は廃止となります。
- 本町内には、バス路線から離れており、バスを利用しにくい交通空白地域が点在していますが、これらの地域にバスを乗り入れることは現実的ではなく、タクシー助成といった方法により移動を支援することが現実的と考えられます。
- このように、地域の特性に応じて路線バスやデマンド型乗合タクシー、NPO法人等による公共交通空白地有償運送、タクシー助成といった、バスやタクシー等の既存交通をはじめ、地域ボランティア等の人的資源を活用した多様な移手段を確保し、住民の移動ニーズに対応します。

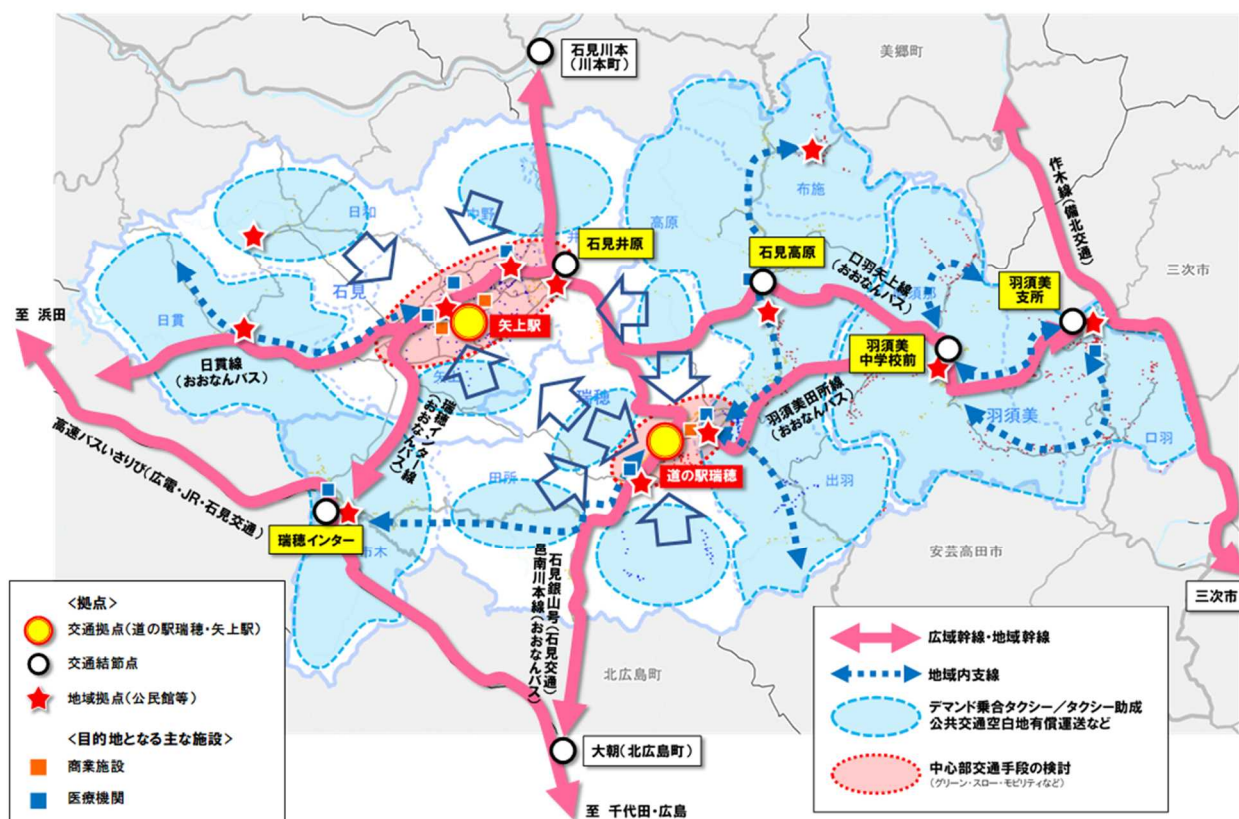


図 53 地域特性に応じた移手段の確保イメージ

1-2-2 ふくし号・やまびこ号のデマンド化またはタクシー助成制度導入等の検討

- 瑞穂地域を運行する「ふくし号」は高原線、出羽線、市木線の補完支線、石見地域を運行する「やまびこ号」は日和線、日貫線の補完支線として機能していますが、いずれも一週間のうち一日だけの曜日運行となっており、前述のように 1 便当たりの平均利用者数が 2 人を切っています。
- また、定時定路線運行となっているためバス停まで出なければならず、高齢の利用者にとって使いづらいものとなっています。
- これらのことから、「ふくし号」「やまびこ号」について週複数回運行するデマンド型の区域運行にすることを検討します。

1-2-3 バス停の増設・フリー乗降区間の設定

- 傾斜の多い中山間地に住む高齢者にとって、自宅からバス停まで出てくことや荷物を持ってバス停から自宅に帰ることがバス利用の障害になっている面があります。できるだけ自宅や目的地の近くで乗降したいという、新たなバス停設置のニーズもみられます。
- 一方で、安全性が確保できる道路にフリー乗降区間を設けることができれば、自宅近くでバスに乗りたいという要望にある程度対応することができます。
- これらのことから、住民ニーズに対応したバス停の増設や、フリー乗降区間の設定等について検討します。

1-2-4 通院タクシー料金助成制度の拡充

- 現在、通院タクシー料金助成制度の対象は3地区9地域ありますが、実際にこの制度を利用されているのは矢上地区の2世帯のみとなっています。
- この制度の助成対象者の要件を緩和するなどし、助成制度の拡充を図ります。

表 17 通院タクシー料金助成制度の対象地域（現状）

地域	地区	対象地域
羽須美	口羽	大 草
		日 南 川
		青 石
		大 所
石見	井原	野 原 谷
		断 魚 いわみ 荘 前
		断 魚
	矢上	須 摩 谷
		上 大 畑 谷

事業 1-3 おおなんバスの利便性向上とダイヤの見直し

1-3-1 通学利便性の向上

- 高校生アンケートでは通学に際して家族送迎の割合が高く、その理由として「登下校の時間に合う公共交通がないため」が最も高い割合で挙がっています。
- そこで、通学利便性の向上を図ることにより、高校生のおおなんバス利用を促進します。

1-3-2 通院・買物利用を考慮したダイヤ設定

- 小中高校生以外のバス利用の核となるのは、高齢者の通院・買物利用です。高齢者の一般的な行動パターンとして、朝早く病院へ行き、帰りに買物をして午前中からお昼過ぎにかけて帰宅するケースが多くみられます。
- これらの動きに対応したダイヤになっているかどうかを点検し、通院・買物の利便性の向上を図ります。

事業 1-4 料金体系の見直し

1-4-1 長距離路線へのゾーン制料金の導入検討

- おおなんバスの運賃は基本的に 200 円の定額制で、一部距離によって金額を変えている路線があります。
- おおなんバスでは二つの路線を乗り継ぐ場合、「乗継券」を発行することによって 200 円で町内を移動できますが、邑南川本線や口羽矢上線との間での乗り継ぎにはこの「乗継券」が発行されないため、これらの整合性を図る必要があります。
- 町全体の運賃体系の見直しの中で、系統キロの長い路線については 2～3 段階で運賃が加算されるゾーン制料金の導入を検討します。

1-4-2 割引回数券・定期券の発行の検討

- バス利用を促進するため、高齢者を対象とした割引回数券・定期券の発行等について検討します。

1-4-3 持続可能な料金体系の見直し

- おおなんバスの将来的にわたる持続可能な運行を確保できるよう、現在の一律 200 円の運賃体系を見直し、赤字補てんの負担軽減化に努めます。

【目標1】公共交通ネットワークの再編			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
1-1	広域路線とおおなんバスの接続改善	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	邑南川本線の効率化	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
1-2	地域特性に応じた移動手段を確保	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	ふくし号・やまびこ号のデマンド化の検討またはタクシー助成制度導入等の検討	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	バス停の増設・フリー乗降区間の設定	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	通院タクシー料金助成制度の拡充	邑南町	2019年～2025年度
1-3	通学利便性の向上	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	通院・買物利用を考慮したダイヤ設定	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
1-4	長距離路線へのゾーン制料金の導入検討	邑南町	2019年度
	割引回数券・定期券の発行の検討	邑南町	2019年度
	持続可能な料金体系の見直し	邑南町	2020年度
評価指標	年間バス利用者数【成果指標】		
	算定方法	現状値(2022年度)	目標値(2025年度)
	○当該年度の年間バス利用者数の総合計	46,000人/年	50,000人/年
評価指標	おおなんバスの収支率【成果指標】		
	算定方法	現状値(2022年度)	目標値(2025年度)
	○当該年度の運送料収入÷当該年度の運行経費	11.4%	20.0%
評価指標	町負担額【成果指標】		
	算定方法	現状値(2022年度)	目標値(2025年度)
	○当該年度の備北交通株式会社及びNPO法人はすみ振興会への支出額	12,505千円	現状維持

【目標2】 ネットワークの要となる拠点等の整備

事業2-1 「道の駅瑞穂」の拠点性の向上

2-1-1 道の駅を拠点とした貨客混載システムの検討

- 「道の駅瑞穂」の整備においては、様々な機能を有した地域拠点としての整備が期待されています。その中でも、公共交通と貨物輸送が連携した貨客混載システムの構築が課題となっており、地域特性に応じた効率的な輸送サービスのあり方を検討します。

2-1-2 バスターミナルとしての機能強化

- 「道の駅瑞穂」は元々バスターミナルとして整備されたという経緯からも、町内各地を結ぶハブ的な役割を担う交通拠点としての機能強化を図ります。

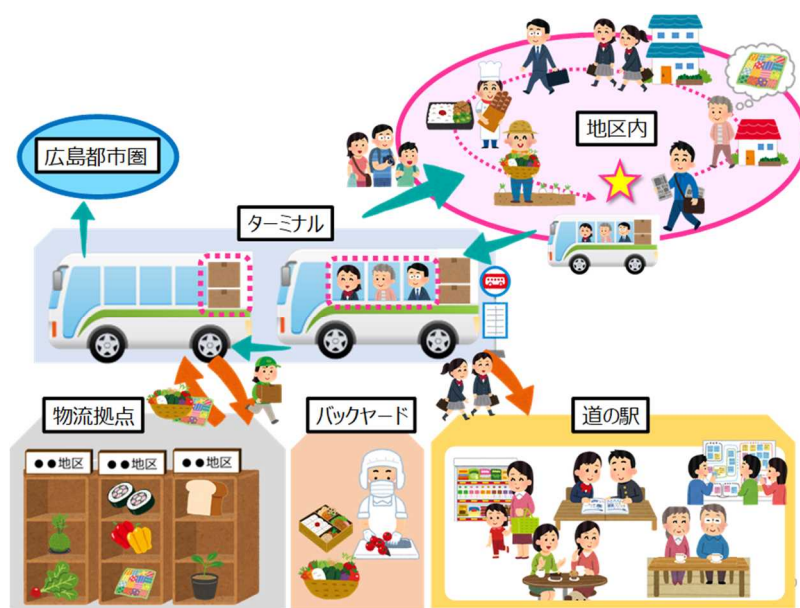


図 54 道の駅瑞穂（旅客と貨物の複合イメージ）

事業2-2 結節点やバス停の整備

2-2-1 結節点・バス停の点検実施

- おおなんバスのバス停には文字が判別しにくい箇所や破損している箇所も見受けられます。これらの実態を把握し計画的に整備していくため、バス停や交通結節点の点検を実施します。

2-2-2 待合環境の充実

- 前述の結節点・バス停の点検結果に基づき、交通拠点・交通結節点・主要拠点等は町で、地域拠点やその他のバス停については住民等により順次待合環境の整備を進めます。



図 55 矢上駅整備の例

【目標2】ネットワークの要となる拠点等の整備			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
2-1	道の駅を拠点とした貨客混載システムの検討	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	バスターミナルとしての機能強化	邑南町	2019年～2025年度
2-2	結節点・バス停の点検実施	邑南町	2019年～2025年度
	待合環境の充実	邑南町	2019年～2025年度
評価指標	交通拠点及び交通結節点整備箇所数 【進捗指標】		
算定方法		現状値(2018年度)	目標値(2025年度)
○2019年度以降、交通拠点及び交通結節点となるバス停や待合環境を整備した箇所の累計		0箇所	5箇所

【目標3】 効率的で安全な運用体制の構築

事業3-1 安全な運行管理・運行体制の構築

3-1-1 町と運行事業者の連携強化

○おおなんバスは町内3つの交通事業者に委託していますが、事業主体である町と委託事業者の連携は重要です。より良い運行への改善に向けた意見交換を引き続き行い、今以上の連携強化を図ります。

3-1-2 ドライバー確保・育成への支援

○全ての業種で人手不足が進む中、公共交通のドライバー不足も全国的な課題として深刻になってきています。おおなんバスの運行を委託している交通事業者では、今のところ差し迫った状況には至っていませんが、ドライバー不足は大きな懸念材料です。

○町としても安定的な運行の確保といった面から、ドライバーの確保・育成についての支援策を検討します。

3-1-3 バス車両の計画的な更新

○おおなんバスは積雪の多い中山間地域を運行することから、冬季の凍結防止剤の影響で車両が傷みやすく、車両の更新が大きな課題となっています。

○本町のバス車両は起債により購入しており、12年の償却となっているため新たな車両の更新は12年がひとつの目安となっています。したがって、早めに更新するためには、繰り上げ償還の必要が生じ、十分な更新ができていないのが現状です。

○予備車も含め、今後財源の問題も含めて計画的な更新に努めます。

事業3-2 効率的な運行管理システムの導入

3-2-1 バス関連情報の一元化

○本町は地域内の路線バスのほとんどを79条が占めており、公共交通担当部局の負担が大きくなっています。その中で職員も定期的に異動するため、バス関連の情報の管理が重要となります。

○バス担当部局の負担軽減と事業の継続性を確保するため、バス関連情報をデジタル化して整理し、一元的に管理する体制を検討します。



図 56 情報一元化システムのイメージの例（雲南市）

3-2-2 バス関連情報のデジタル化

○バス関連情報の一元化に伴い、運行を委託している事業者からの運行・利用状況・収支状況等のデータをデジタル化することにより、運行管理の効率化を図ることを検討します。

【目標3】効率的で安全な運用体制の構築			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
3-1	町と運行事業者の連携強化	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
	ドライバー確保・育成への支援	邑南町・交通事業者	2020年～2025年度
	バス車両の計画的な更新	邑南町	2019年～2025年度
3-2	バス関連情報の一元化	邑南町	2019年～2025年度
	バス関連情報のデジタル化	邑南町・交通事業者	2019年～2025年度
評価指標	町営バスのドライバー確保策としての講習会参加への助成 【進捗指標】		
算定方法		現状値 (2018年度)	目標値(2025年度)
○2019年度以降、第一種免許保有者の運転講習参加への助成数の累計		0件	5件

【目標4】 わかりやすい情報提供

事業 4-1 だれにもわかりやすい情報提供

4-1-1 おおなんバスマップ・時刻表の作成・充実

○観光客等、初めて本町を訪れた人にもわかりやすいように、バスマップや時刻表の作成・充実を図ります。

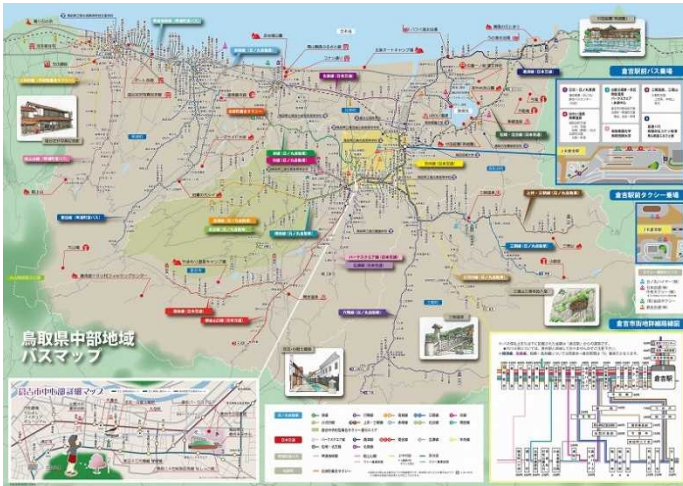


図 57 公共交通マップの取り組み例(鳥取県)



図 58 わかりやすい情報提供の例(安来市)

4-1-2 緊急連絡体制の構築

○急な積雪や、交通事故等により道路が不通になるなど、特に通学時間帯のバス運行時の緊急事態の情報を素早く周知するしくみを構築します。具体的には、SNS等を活用した緊急時の情報公開等について検討します。

4-1-3 ICTを活用した情報提供の推進

○本町の時刻表は町のホームページからダウンロードできるほか、鳥取大学が開発した「バスネット」でも検索することができます。今後は情報内容の充実を図りながら、これらのことを広くPRし、ICTを活用した情報提供を推進します。



図 59 バスロケーションシステムでの情報提供の例(北広島町)



図 60 交通事業者による facebook の活用例

4-1-4 公共交通に関する定期的な情報提供

○おおなんバスの現状等を細かく伝えることにより、乗って守るという機運を醸成していくため、町の広報誌等を使い定期的な情報提供を行います。

【目標4】わかりやすい情報提供			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
4 - 1	おおなんバスマップ・時刻表の作成・充実	邑南町	2019 年～2025 年度
	緊急連絡体制の構築	邑南町・交通事業者	2019 年度
	ICT を活用した情報提供の推進	邑南町	2019 年～2025 年度
	公共交通に関する定期的な情報提供	邑南町	2019 年～2025 年度
評価指標	町広報誌等による情報提供回数 【進捗指標】		
	算定方法	現状値 (2018 年度)	目標値(2025 年度)
	○2019 年度以降、町広報誌等への公共交通に関する記事の掲載回数の累計	0 回	60 回

基本方針3:ともに創り育てる公共交通

【目標5】 地域住民と連携したサービスの構築

事業5-1 小さな拠点づくり活動との連携

5-1-1 地域の主体的な取り組みによる移動サービスの検討

- 前述のように、羽須美地域では地元住民で構成されたNPO法人によるデマンド運行の取り組みが進められています。
- 一方で、地域組織がタクシー事業者と連携して、地域の実情に応じた移動サービスを実施している例も見受けられます。
- このような地域が主体となって移動手段を確保するという取り組みについて積極的に支援し、住民ニーズに即した移動サービスの構築を図ります。

5-1-2 公民館単位での貨客混載の研究

- 将来的な町の交通・物流拠点となる「道の駅瑞穂」の機能に対応できるよう、各公民館単位で人と物を運ぶシステムの構築について研究し、効率の良い新たな輸送サービスを検討します。

5-1-3 住民との協働による交通結節点・地域拠点の整備及び維持管理

- 本計画で位置付けた交通結節点である「石見井原」「瑞穂インター」「石見高原」「羽須美中学校前」「羽須美支所」等について、地元住民との協働により待合環境の整備や維持管理について検討します。
- 目的地としての魅力向上を図るため、住民が主体となって各種地域活動や移動販売、宅配受け取り窓口、移動サービスの提供等の多様なサービス機能を強化し、バス停の機能も付加した地域拠点整備への支援を行っていきます。

【目標5】地域住民と連携したサービスの構築			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
5-1	地域の主体的な取り組みによる移動サービスの検討	邑南町・住民	2019年～2025年度
	公民館単位での貨客混載の研究	邑南町・住民・交通事業者	2019年～2025年度
	住民との協働による交通結節点・地域拠点の整備及び維持管理	邑南町・住民	2019年～2025年度
評価指標	地域での自主的な移動サービスの取り組み数 【進捗指標】		
	算定方法	現状値 (2018年度)	目標値 (2025年度)
	○2019年度以降、新たな取り組みを始めた件数の累計	0件	6件

【目標6】 積極的な利用促進活動の推進

事業6-1 高齢者・高校生・観光客等のバス利用の促進

6-1-1 運転免許証自主返納施策の充実

- 高齢ドライバーの交通事故が社会問題となる中で、全国的に高齢者の運転免許証自主返納の動きが見られます。公共交通網が十分でない本町においては、車の運転免許証を手放すことは移動の自由度を大幅に狭めることになり、生活がしにくくなるといった面は否めません。
- このような状況にあって、免許返納後も生活上の移動を保証できる交通体系を整えつつ、自主返納の動機づけとなる回数券の無料配布等の施策を積極的に展開していきます。

6-1-2 高校生のバス利用の促進

- 高校生アンケートで明らかになったように、高校生の自家用車による家族送迎はかなり高い割合で日常的に行われています。
- 通学でほぼ毎日バスを利用する高校生が増えることが、おおなんバスの利用者数を引き上げることにつながることから、モビリティ・マネジメントの手法を活用したチラシの配布等により、高校生のバス利用を積極的に働きかけます。

6-1-3 地域イベントでのバス利用の促進

- 町内で実施するイベントのPRの際、おおなんバスの時刻表等を掲載することにより路線バス利用を積極的にPRします。

6-1-4 観光地間をつなぐ移動利便性向上の検討

- 広島方面から観光客が路線バスを利用して町内に入る可能性としては、高速バスを利用して瑞穂インターで降り、そこから「香木の森」等に行くケースや、作木線で羽須美支所まで来て、そこから宇都井駅でのイベント等に行くケース等が考えられます。
- これらの移動をスムーズにするため、結節点での接続利便性の向上を図ります。
- 本町では東西間の移動利便性が低い傾向にあります。東西間移動を担う路線としては、口羽矢上線や市木線から羽須美田所線への乗り換えが考えられますが、観光目的での東西移動の可能性を検討し、必要に応じてダイヤの充実を図ります。
- イベントの告知時やバスマップ等でバスによる観光移動の可能性をPRし、バス利用促進を図ります。併せて観光利用しやすい割引回数券の発行等を検討します。

6-1-5 バスの乗り方教室・体験試乗会の実施

- 小学生や高齢者を対象とした「バスの乗り方教室」を学校単位や公民館単位で実施し、バスに乗ることに慣れていただくことで利用促進を図ります。



図 61 バス乗り方教室の事例（鳥取県倉吉市の例）

【目標6】積極的な利用促進活動の推進			
事業 No	内容	事業主体	実施時期
6 - 1	運転免許証自主返納施策の充実	邑南町	2019 年～2025 年度
	高校生のバス利用の促進	邑南町・交通事業者	2019 年～2025 年度
	地域イベントでのバス利用の促進	邑南町・交通事業者・住民	2019 年～2025 年度
	観光地間をつなぐ移動利便性向上の検討	邑南町・交通事業者	2019 年～2025 年度
	バスの乗り方教室・体験試乗会の実施	邑南町・交通事業者	2019 年～2025 年度
評価指標	バス利用促進の取り組み回数 【進捗指標】		
	算定方法	現状値（2018 年度）	目標値(2025 年度)
	○2019 年度以降、バス利用促進チラシの配布、バス乗り方教室等の実施回数の累計	0 回	15 回

第9章 事業実施スケジュール

○本計画の実施スケジュールを、以下のように設定します。

表 18 事業主体とスケジュール

目標	事業名	事業内容	事業主体			事業スケジュール 2019年～2025年度					
			町	事業者	住民	19	20	21	22	23	24・25
基本方針 1 / 地域をつなぐ公共交通											
【目標 1】	事業 1-1 広域的なネットワークの構築	広域路線とおおなんバスの接続改善	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		邑南川本線の効率化	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	事業 1-2 高齢者が利用しやすい支線交通の構築	地域特性に応じた移動手段の確保	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ふくし号・やまびこ号のデマンド化またはタクシー助成制度導入等の検討	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		バス停の増設・フリー乗降区間の設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		通院タクシー料金助成制度の拡充	●			●	●	●	●	●	●
	事業 1-3 おおなんバスの利便性向上とダイヤの見直し	通学利便性の向上	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		通院・買物利用を考慮したダイヤ設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	事業 1-4 料金体系の見直し	長距離路線へのゾーン制料金の導入検討	●			●					
		割引回数券・定期券の発行の検討	●			●					
持続可能な料金体系の見直し		●			●						
【目標 2】	事業 2-1 「道の駅瑞穂」の拠点性の向上	道の駅を拠点とした貨客混載システムの検討	●	●	●	●	●	●	●	●	
		バスターミナルとしての機能強化	●			●	●	●	●	●	
	事業 2-2 結節点やバス停の整備	結節点・バス停の点検実施	●			●	●	●	●	●	
		待合環境の充実	●			●	●	●	●	●	
基本方針 2 / 安心・安全な公共交通											
【目標 3】	事業 3-1 安全な運行管理・運行体制の構築	町と運行事業者の連携強化	●	●		●	●	●	●	●	●
		ドライバー確保・育成への支援	●	●		●	●	●	●	●	
		バス車両の計画的な更新	●			●	●	●	●	●	
	事業 3-2 効率的な運行管理システムの導入	バス関連情報の一元化	●			●	●				
バス関連情報のデジタル化		●	●		●	●	●	●	●	●	
【目標 4】	事業 4-1 だれにもわかりやすい情報提供	おおなんバスマップ・時刻表の作成・充実	●			●	●	●	●	●	●
		緊急連絡体制の構築	●	●		●					
		ICTを活用した情報提供の推進	●			●	●	●	●	●	●
		公共交通に関する定期的な情報提供	●			●	●	●	●	●	●
基本方針 3 / ともに創り育てる公共交通											
【目標 5】	事業 5-1 小さな拠点づくり活動との連携	地域の主体的な取り組みによる移動サービスの検討	●		●	●	●	●	●	●	●
		公民館単位での貨客混載の研究	●	●	●	●	●	●	●	●	
		住民との協働による交通結節点・交通拠点の整備及び維持管理	●		●	●	●	●	●	●	●
		運転免許証自主返納施策の充実	●			●	●	●	●	●	●
【目標 6】	事業 6-1 高齢者・高校生・観光客等のバス利用の促進	高校生のバス利用の促進	●	●		●	●	●	●	●	●
		地域イベントでのバス利用の促進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		観光地間をつなぐ移動利便性向上の検討	●	●		●	●	●	●	●	●
		バスの乗り方教室・体験試乗会の実施	●	●		●	●	●	●	●	●

第 10 章 計画の推進体制と評価・検証方法

10-1 計画推進体制

- 本計画の推進及び事業進捗状況の把握は「邑南町地域公共交通会議」が行うこととします。
- 「邑南町地域公共交通会議」では年度ごとに進捗状況を把握し、計画が適正に行われるよう関係機関との調整を行います。

10-2 事業進捗状況の評価・検証の進め方

10-2-1 成果指標

- 「年間バス利用者数」「おおなんバスの収支率」「町負担額」といった、施策を実施した結果として表われる成果指標については、事業実施後3年経過した時点で数値を把握し「邑南町地域公共交通会議」で評価を行い、見直しの必要があれば改善計画を作成し随時改善を行います。

10-2-2 進捗指標

- 「バス停・待合環境整備箇所数」「町広報誌等による情報提供回数」「地域での自主的な移動サービスの取り組み数」といった進捗状況を評価する指標については毎年把握し「邑南町地域公共交通会議」で評価を行い、必要に応じて改善しながら継続して実施していきます。

邑南町地域公共交通網形成計画



発行日 平成 31 年 2 月（令和 6 年 3 月一部改訂）

発行 邑南町

編集 邑南町 地域みらい課

〒696-0192 島根県邑智郡邑南町矢上 6000 番地

電話 0855-95-1117
